

主な検討課題 / 論点整理 (案)

1. 文化芸術分野において契約の書面化が進まない理由

文化芸術分野の契約の多様性

- 分野、職種、案件により、業務内容や契約期間が様々
- 発注者は1つの活動で多くの発注先とその多様な契約を交わす必要
- 1人の受注者にとっても、関わる期間や報酬の額により軽重がある

分野の構造的な特性

- 業務内容が創作過程で変わることもあり、依頼時に詳細を全て確定させることが難しい
- 興行・チケット収入等に基づくため資金調達の見通しも立てづらい上、事業予算は収入見込みから逆算して決まることが多い
- 契約や権利、フリーランスとして働くこと等について学ぶ機会がないまま働き始めることが多い

分野特有の「空気」

- 信頼関係からくる口頭契約の慣行
- 契約手続きという事務手続きに時間や手間を割くよりも、本来の活動に時間を掛けたい・専念したい
- 交渉・協議すらできない雰囲気(干される・切られる不安)
- 契約等に関する知識がなく、交渉せずに諦めてしまう

2. 曖昧な契約や不適正な契約書によって生じる問題

口頭での契約や不十分な契約内容による予期せぬ不利益

- 一方的なキャンセルや報酬の減額等は本来契約違反であるが、それを証明できない
- 根拠がないためにキャンセル料が支払われない

一方的な内容の契約書により被る不利益

- 報酬や知的財産権が適切に保護されていない
- 合理的な範囲を超えた義務を負う内容

作業環境の整備

- 安全配慮、健康配慮、事故防止対策やハラスメント対策がなされていない

3. わかりやすい契約書のひな型と解説の作成

重要ポイントを明確化し、柔軟性のあるひな型の提示
適正性、公平性の示し方

- 芸術家等が、文化芸術分野のプロフェッショナルとして尊厳のある仕事ができるようにする
- 受発注の力関係をふまえ、公平性を実現する工夫

関連法規の考え方の取り込み

- 独禁法、下請法、労働法、著作権法、著作権契約法
分野の特徴や、役務提供の特徴をどう反映させるのか

4. 適正な契約に向けた実効性の確保

受発注側双方におけるインセンティブの必要性

- 発注側：行政からの支援、コンプライアンス対応、インボイス制度への対応 他
- 受注側：文化芸術活動に集中できる環境づくり、労災認定 他

幅広い支援が必要

- 契約書作成支援、トラブル相談窓口、教育啓発 等

契約書に依らない方法

- 約款等による共通ルールの設定や、見積書・発注書による合意等

5. 契約書の必要性や理解を深める教育及び広報啓発

芸術系教育機関や業界内での契約意識の醸成と人材育成
適正な契約に基づく必要経費や価格転嫁への国民の理解

6. その他

海外プラットフォームの規約や再委託条件等の実態把握
芸術系教育機関や業界団体の契約講座等の実態把握